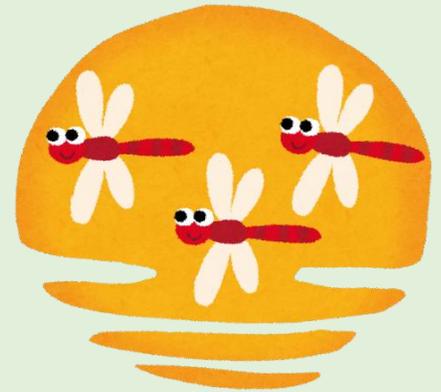




## ～お知らせ～



先月の千葉県を中心に大きな被害を出した台風15号につづき先週から今週にかけて台風19号による豪雨等で甚大な被害が出ています。今回の災害で亡くなった人は78人にも！堤防の決壊が55河川の79箇所、住宅の全半壊95棟、床上浸水2万棟あまりで、まだまだ被害の全容はまだ分かっていないとのこと。北陸地方整備局管内では、千曲川の左岸堤防が長野市穂保地内で70mに渡って決壊し、浸水は川の西側の南北5Kほどの範囲に広がり浸水の深さは、川沿いの穂保地区で2m～3mにも達し、多くの建物やリンゴ畑等の農地が水没したほか、北陸新幹線の「長野新幹線車両センター」も水没。これにより、北陸新幹線の120両が水につかり、被害は全車両の3分の1にのぼるとのこと。専門家によると「最悪、廃車になるかもしれない」そうです。仮設道路などに係る補償コンサルタント業務も発注されるやに聞いています。場合によっては、「災害協定」による出勤も考えられているようです。一刻も早く被災者の救済が進むように！

台風の多発化や大型化の原因として「地球温暖化の進行」が論じられています。気象庁気象研究所や財団法人地球科学技術総合推進機構を中心とする研究グループによると「地球温暖化と台風の関係については、現時点では、地球温暖化の影響が台風の大きさや強さに及んでいると結論付けることはできません。台風の年間発生数に対する、最大風速が毎秒33m以上の「強い」勢力を持つ台風の発生割合は、1970年代後半から80年代後半にかけて増加傾向にありましたが、80年代後半をピークに90年代後半まで減少傾向が続き、2000年代になって再び増加に転じています。このような動向は10～20年程度で増減するものであり地球温暖化による気温の上昇傾向と明瞭な相関があるとは言えません。しかし、21世紀末頃を想定した温暖化予測実験によると、全地球的な熱帯低気圧の発生数については、現在気候再現実験における発生数よりも30%程度減少する一方、海上(地上)の最大風速が45m/sを超えるような非常に強い熱帯低気圧の出現数については、地球温暖化に伴って増加する傾向があるとされており、災害が全体として激化することを想定することが重要と考えられます。ただし、現在のところこのような数値実験の結果がどこまで信頼できるかを判断するためには、更なる研究が必要。」とされています。

下半期に突入しました。工程管理をよろしくお願いします。



「ウィークリースタンス」の徹底をお願いします。  
昼休みや16時以降開始の打合せは行わない  
休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない  
休前日（金曜日）は新たな依頼をしない  
ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない



○ホームページを更新しています！ [www.hokurikuyouchi.co.jp](http://www.hokurikuyouchi.co.jp)

○お願い 「Aipo」を活用してください。